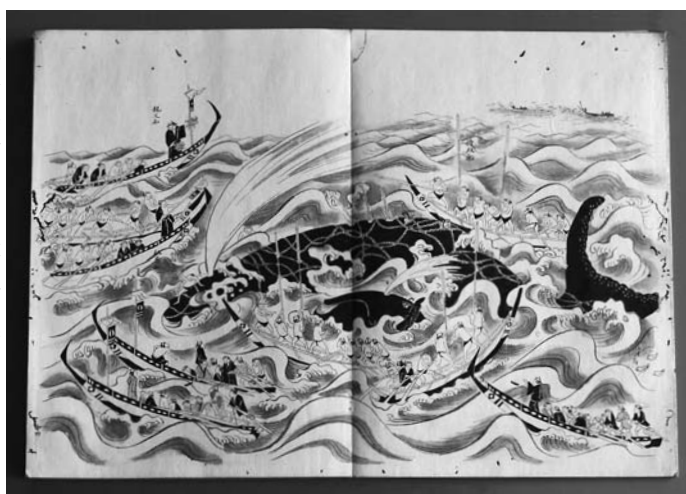


勇魚取絵詞

(寅—18) 3冊

江戸時代、現在の長崎県や佐賀県の北部では、海の恵みを得る捕鯨業が盛んに行われていました。この資料は、肥前国平戸藩生月島（現在の長崎県平戸市）で益富組という鯨組によって操業されていた捕鯨業の様子を、組主である益富又左衛門が描かせたものです。上巻と中巻では捕鯨や納屋作業の様子、下巻では鯨の生体や鯨の解体作業、捕鯨道具、納屋小屋について描かれています。



▶生月御崎沖座頭子持鯨剣切図。羽指（捕鯨作業時のリーダー格の人）によって剣切（鯨にとどめを刺すため鯨に乗って両刃の剣を突き立てる）を行っている様子が描かれています。この資料は9月3日から開催する企画展「日本人とくじら」で展示します。

とりわけ捕鯨についてはその一連の流れが明確に描かれており、当時の様子を伝える重要な資料となっています。本資料の作者は不明ですが、末尾に江戸時代後期の国文学者小山田與清による後書きが文政12（1829）年に書かれています。原資料は版本で、その版木は平戸にある松浦史料博物館に現存しています。岩瀬文庫の資料は、書写識語（書写・入手の由来や年月日を写したもの）によると、天保11（1840）年秋に藤原直光（人物の子細は不明）が原版本を写したものからさらに写したものです。このように来歴がはっきりしているところも、この資料の特徴に挙げられます。

西尾の古と探る

65

大名家の墓所

市内には4か所の大名家の墓所が知られています。東部丘陵の北の貝吹村に板倉六家の墓、南の駿馬村に松平忠親（松井忠次）の墓、碧海台地南端の寺津村に大河内松平信貞・信貞夫人・秀綱の墓、そして西尾城下に大給松平乗全とその夫人の墓があります。

板倉氏の墓所は長円寺本堂裏山にあります。近世板倉家の祖・勝重を祭る肖影堂を中心に60基余の墓石が配置され、堂両側が板倉宗家の備中松山家、外縁に沿って陸奥福島家、その間の南部分が備中庭瀬家、北部分が三河深溝家、参道を隔てた南奥が上野安中家と修理家の墓域となっています。古文書によると、地表から深さ2・4m下に広さ約80cm四方の石室を造り、石室の蓋石に墓誌を刻むとあります。

松平忠親の墓は、彼が東条松平義春の菩提を弔うために

創建したと伝えられる法応寺の裏山にあつた墓域の一角に、方形の廟所を設けて祭られたと思われれます。延享2（1745）年には孫の康福によって武功碑が建てられています。大河内氏の墓所は、寺津城跡に建つ金剛院の南西裏にあり、大河内松平氏の祖とする3基の墓を奥にして、それ以降の大名の供養塔が建てられました。土壇を設けて玉垣が巡らされていましたが、現在は本堂横に移転し、玉垣もなく平地に立ち並んでいます。

松平乗全の墓は、西尾城下にある菩提所盛巖寺の本堂西南裏に造られたものを、大正8年に現在の本堂横に移転しました。昭和3年には、その夫人の墓が東京の天徳寺から移されています。

このように、大名家の墓所は武將ゆかりの地または中世城跡に造られました。